

令和3年度普及活動外部評価会  
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言  
(全体をとおして)

1 普及指導活動の体制 (課内の分担・活動の進ちよく管理・普及指導員の資質向上の取組)

- ・限られた職員数で、多様な普及活動に取り組んでおり大変だと思う
- ・定期的にチーム会などを実施するなど、日々の進捗管理ができています。タブレットの活用など情報共有できる方法を工夫する
- ・OJTを重視した対応や研修等を通して、新任者教育をはじめ職員の資質向上に努めており、若い人材が育っていると感じた
- ・AI診断等が進んでも、普及指導員として基本的なレベルの維持が必要であり、基本的な技術の研修も必要

2 普及指導活動の計画 (普及課題の設定・対象の設定・関係機関との連携・目標設定)

- ・目標設定の仕方として、中長期的な目標のゴールから遡って目標を立てる。高い目標だけでなく、モチベーションが維持できるよう少し頑張れば達成できる目標も設定する
- ・活動の振り返りをする中で、目標が明確になっている
- ・環境制御技術の効率的活用や生理障害対策などにも目配りできている
- ・山間部の農業振興の課題に対し、主要品目を軸に計画が良く練られている
- ・コロナ禍で対応が難しい中、対象を絞り込んで活動ができています
- ・普及が中心となり、関係機関と連携することで計画的な活動ができています
- ・今後も営農指導員と連携し、普及しかできないこと、普及だからこそできることをすすめてもらいたい

3 普及指導活動の成果 (活動の経過・実績・成果・結果の周知)

- ・ほ場情報をマッピングで共有し、担当が異動でかわっても指導できるようにつなげている
- ・農業のデジタル化は欠かせないが、最終的には現場で直接関わる普及指導員の人間力が必要だと思う。熱い思いを持って活動していることを感じた
- ・ICTの取組がすすんでおり、私がこの評価に携わった3年間で質が高まってきている。データの収集・分析・フィードバックまで連携、協力がとれており、産地全体のレベルアップにつながっている
  - ・コロナ禍でもデータ活用するなど普及活動を頑張って成果を上げている。日頃の努力で農家との信頼関係ができていますからだと思う。今後も農家全体の協力が必要なので、データ活用してない農家も意識をかえるきっかけとなるよう、フィードバックできる仕組みを考えて欲しい
- ・「普及活動のふりかえり」は、活動の結果だけではなく、目標を達成できなかった要因も記載すること

4 その他

- ・今後、普及の存在価値がますます重要になると思う。こうした取組により明日の農業に希望が持てる
- ・中山間地域では多品目、伝統野菜などを栽培し、高知の食料、食文化を支えている。こうした産地が生き残れるように行政に支援して欲しい
- ・新規就農者や移住者と十分にコミュニケーションがとれていたか心配する。高知は良い自然環境があるが、生活インフラが弱いことが課題と感じた
- ・50代以上の農家には、男尊女卑などの古い考え方の人がいる。女性の地位向上についても取組をすすめてもらいたい